

## Town Topics

広報誌で紹介した写真またはデータを希望者に提供します。

お申し込み

情報課広報広聴係

TEL 23-3069

### 思い出いつまでも

### 中小屋小学校が106年の歴史に幕

(3月5日)



中小屋小学校は、農村地域の教育を担うため明治33年にお寺を借りて開校しました。現在まで1,604人の卒業生を送り出してきましたが、離農などで児童数が減り続け、今年3月末に閉校しました。

閉校記念式典には同窓生、地域住民など約180人が参列し、同校の閉校をしのびました。

式典に先立ち、大きくそびえ立つ榆の木の前に建立された記念碑を地域関係者や在校生などが手を取り合い除幕すると大きな拍手が沸きました。

式典では、全児童9人が総合学習や音楽の授業で練習を重ねてきた「当別太鼓」を息を合わせて力強く演奏し、同校106年の歴史に花を添えました。その後に行われた「別れを惜しむ会」では、地域住民や同窓生が学校の思い出を振り返り、閉校を惜しむ姿が見られました。

また、24日には児童の父母らが見守るなか、同小学校の閉校式が行われ、児童は慣れ親しんだ校舎に別れを告げました。卒業生を代表して島崎奈緒さんが「この中小屋小学校でみんなで心をつなぐことの必要さを学んだ。小学校での思い出をいつまでも忘れずにこれからも頑張っていく」と決意を述べました。

同校の在校生6人は、4月からスクールバスで当別小学校に通い、新しい学校生活がスタートします。

### 届け未来へ「夢と希望の宝箱」



中小屋小学校の閉校を記念して町内小学校の卒業生が、将来の夢と希望を詰め込んだタイムカプセルを作りました。3月24日にこのカプセルを預かってもらおうと各学校の代表児童が役場を訪れ、泉亭町長に手渡しました。

カプセルは、卒業生が成人式を迎えた時に開封する予定です。



## 裁判員の体験を通して白熱した議論

(2月27日)



札幌地方裁判所が主催した「裁判員制度出張講座」の2回目が1月に引き続き開催されました。

今回は、参加者が6人ずつ4班に分かれて実際に殺人事件が起きたという想定で、被告人に殺害の意思があったのかを検証しました。

参加者は、裁判官や裁判所の職員と一緒に被告人の行動や物的証拠などを基に疑問点を整理していき、有罪か無罪かを判断し、最後に班ごとに発表しました。

裁判員の体験をした参加者からは「実際に判決を下すことは難しいが、講座に参加したことでとても良い勉強になった」と話していました。

## 地域ぐるみで防災に取り組む

(3月12日)



森林ボランティアの「シラカンパの会」が町民自主企画講座「冬の防災と応急手当」を開催し、35人が参加しました。講師は、災害救援ネットワーク北海道代表の山口幸雄さんが務め、「防災紙芝居」を使って災害に遭った時にどう行動するかをわかりやすく説明し、参加者はうなずきながら聞いていました。

昼食には、炊き出し訓練として参加者が協力して豚汁とおにぎりを作り、おいしく試食しました。

午後からは、災害時に簡単に作ることができるカンテラ、笛作りを体験し、1日を通して有意義な講座に参加者は、満足していました。

## 自慢の歌披露 カラオケ大会

(3月12日)



町カラオケ連合会が、町内外から参加者を集い開催している「当別町長杯争奪カラオケ大会」が白樺コミュニティセンターで開かれました。

シニア（66歳以上）と一般（65歳以下）の部に分かれて行われた大会には、遠く紋別市からの参加者を含む約100人が自慢の歌を歌い上げ、会場を埋め尽くした500人の観衆から大きな拍手を浴びていました。

シニアと一般の部それぞれの入賞者には、記念のトロフィーのほかに、副賞に町内で採れたお米が贈られました。

## 正しい除雪方法で健康増進

(3月11日)



日頃の除雪のイメージを一新しようと当別移住促進協議会が主催して「雪かき講習会」を開催しました。

講師を務めた北海道医療大学の森田助教授は「除雪は、大変ではあるが正しいやり方で行えばとても良い運動になる。普段から体を鍛えておくことが必要」と雪かきが健康に与える効果を訴えました。

大阪府から移住目的で町内に滞在中の滝本夫妻も講習会に参加し、「考え方を換えれば、雪も健康づくりなど体に良いことがあると思った」と感想を話していました。